

一栄谷の 異見私見



は、この新田開発は百 姓側の心情をよく知る 人材に任せるとはな ない、といふことで多摩 郡の名主・川崎平右衛 門を登用することを決

木村快脚本・演出に よる合唱構成劇「武蔵 野の歌が聞こえる」が この9月4日から8日 にわたって小金井市に ある現代座ホールにて 再演されることになっ た。これは昨年の9月 に初演されたが、演劇 は人ひとの心を開か せ、ひとつに繋げあっ 場を創するもので あるとする村民の信 念にもとづき、80席の ホールでの公演にた わったこともあって、 満席となった公演もあ り、チケットを確保で きない人も少なからず 出た。このため再演を 希望する声も多く、今 回のほびびとなったも のである。

時は江戸中期、元禄

大地震、宝永大地震、 軍士山火噴火、最大級 の災害が続いたもの の、元禄バブルで弱体 化した幕府は財政を悪 化させるばかりで復興 ・再建をすすめること ができなかつた。そこ で紀州藩主であった徳 川宗家が8代将軍とな った。財政を立て直す ために取り組んだのが 武蔵野新田開発であっ た。しかしながら相次 ぐ飢饉や凶作もあって 新田開発はいつころに はかどらなかつたが、 この時、開発責任者で ある大岡越前の守忠相

断し実行した。平右衛 門は見事に新田の開発 を成功させたが、その やり方は農民の中に眠 る助け合いの心を引き 出していくとともに、 畑糞料(ほたけやしな

協同組合内協同 からの自己改革

いりょう、芝地開発 村民による土工の備蓄 制度等の協同のシステ ムを借用して自力での 開発を導いていったも のである。

木村民は「助け合い は現代のわたしたちが 立ち返る原点」と語る ように、この川崎平右 衛門による新田開発と 3・11の大地震と天津 波、そして福島第一原 発事故という未曾有の 災難からの復旧・復興 を交わらせるところを おり、今、協同の必要 性を訴えるところに本 作品の一番のねらいは

ある。執拗に農協批判 が繰り返され、農協法 の改正も行われようと している一方で、農協 の自己改革が進められ つつある中、是非、本 作品の鑑賞によって協 同組合の原点に思いを 寄せ、自己改革につい て共通の認識を獲得し ていく好機としてはし い。

ところで関連して強 調しておきたいのが、 ここでは新田開発によ る復興・再建が目標で あり、このために助け 合い、協同による活動 をリードしていった ことである。協同 組合あつての助け合い や協同による活動では ない。現場での自発的 な取組みが出发点であ り、この活動をより円 滑・持続的かつ弾力に 展開していくところに 協同組合の役割と位置 づけはある。この現場 での活動と協同組合は 不可逆的な関係にあ り、これを逆にしては 真の協同組合は成り立 ち得ない。その意味で は自己改革の基本は合 併を繰り返して大きく なった協同組合の中で の組合員による小さな 協同活動、すなわち “協同組合内協同”を 押し進めさせていく ことに尽きる。組合員 が主体となり時々の情 勢に応じて必要とされ る協同活動に取り組ん でいくところに事業強 化が求められるのであ り、事業強化さらには所 得増加が必ずしも協同 を強め改革をすすめる ことにはつながらな い。本質が問われる大 事なポイントだ。(農的社会学サイエンス研 究所代表)